

足立スタンダード
-小学校国語-

Q & S 集

questions

suggestions

令和3年度版

足立区教育委員会
令和3年4月

令和3年度版『Q&S集』の作成にあたって

例年ならば、年間に数回の公開授業を踏まえて足立スタンダード小学校国語『授業の基本』を作成するところですが、コロナ禍のために授業実践を公開することができませんでした。しかし、児童の基礎学力を定着させるために、教師が授業力を身に付けることは、どんな状況におかれても大切なことです。そこで令和3年度版は、『Q&S集』を作成して、みなさんの授業づくりのヒントとなることに努めました。

足立スタンダード小学校国語推進委員会は、教職暦10年前後の若手教員を中心に構成されております。誰よりも授業研究が必要な私たちですが、子どもが「分かった」、「楽しかった」と言ってくれる授業を目指してきました。しかし、実際の国語の授業では、次々と疑問や課題に遭遇します。これらを解決するために、様々な文献などを当たるなどして努めていますが、簡単に解決には至りません。私たちが欲しいのは、特に若手教員が必要としているのは、指導知識や指導技術に関する、実践的であり具体的なヒント集です。しかし、フィットする資料にはなかなか出会えませんでした。

それならばいっそのこと、自分たちで作成し、自分たちを含め、若手の先生のお役に立てるように企図しようと意を決しました。これが「Q&S」を作成することになった原点です。

さて、こうした資料集としては「Q&A」という名称が一般的です。しかし、私たちは「授業づくりを提案する」という姿勢のもとで「S=suggestion」を用いています。授業づくりやその展開等は様々ありますが、今回は、私たちが実際に授業で実践したものを資料化し、検討し合い、編纂しました。さらに特別支援教育における国語科指導にも触れてみました。また巻末には、区の重要な施策の一環である「ICT機器を活用した指導」の実践例も掲載しました。十分に検証されたものではなく、かつ力が及ばないものもあろうかと思いますが、授業づくりの一つの提案として参考にさせていただければ幸いです。

令和2年度足立スタンダード小学校国語委員長
足立入谷小学校校長 添野 誠

目次

まえがき 令和3年度版『Q&S集』の作成にあたって・・・足立入谷小学校校長 添野 誠

話すこと・聞くこと	
Q 1 ; 「話すこと・聞くこと」の「教材研究の仕方」が分かりません。	4
Q 2 ; 話すこと・聞くことの学習は授業以外でどのように指導したらよいのでしょうか。	6
書くこと	
Q 3 ; 「書くこと」の授業で、子どもたちの意欲が高まらないことがあります。どのように授業を改善すればよいのでしょうか。	8
Q 4 ; 「書くこと」で教科書はどのように活用すればいいのですか。	11
Q 5 ; 子どもが喜んで書いたという実践事例はありますか。	12
Q 6 ; 「書くこと」の指導内容と学習指導要領との関連を教えてください。	14
読むこと—文学的な文章—	
Q 7 ; 文学的文章の基本的な教材研究の仕方を教えてください。	21
Q 8 ; 読む学習で、系統性をもたせた指導とはどのように行うのですか。	22
Q 9 ; 詩の授業はどのように指導すればよいのでしょうか。	23
Q 10 ; 文学的文章は、どのような手順で、授業を組み立てればよいのですか。	27
Q 11 ; 一人で行う音読以外に、工夫した音読方法はありますか。	28
Q 12 ; 出てきた児童の発言を、どうしたらうまく集約して授業に生かせますか。	29
Q 13 ; 物語の読みは、場面ごとに区切って読ませるのですか。	30
Q 14 ; 読書の意欲を高める効果的な方法は。	31
読むこと—説明的な文章—	
Q 15 ; 説明文の教材研究の仕方が分かりません。	33
Q 16 ; デジタル教科書をどのように使っていますか。	35
Q 17 ; 説明文のめあては、どのように立てればよいのですか。	36
Q 18 ; 授業の終わりで行う「ふりかえり」で何をすればいいのか分かりません。	37
言葉の特徴や使い方に関する事項	
Q 19 ; えんぴつの持ち方は、どのように指導したらよいのでしょうか。	39
Q 20 ; 語彙力を向上させたいです。どのような方法がありますか。	41
Q 21 ; 新出漢字の指導には、どのような方法がありますか。	43
配慮を要する児童への支援方法	
Q 22 ; 支援や配慮を要する子どもへの手立てを教えてください。	46
Q 23 ; 本を読むこと自体を嫌がってなかなか手に取ってくれない児童がいます。どう指導したらよいのでしょうか。	48
Q 24 ; 文字を拾い読みしていて、文章として読むことが難しい児童がいます。どのような支援ができるのでしょうか。	49
Q 25 ; 文章を書く際に、「て・に・を・は」が正しく使えない児童への支援にはどのようなものがありますか。	50
Q 26 ; 漢字を覚えられない児童への支援にはどのようなものがあるのでしょうか。	51
ICT 活用事例	
	52

あとがき

令和3年度版『Q&S集』の作成に携わって・・・高野小学校主任教諭 小暮 直子

話すこと・聞くこと

Q 1 ; 「話すこと・聞くこと」の「教材研究の仕方」が分かりません。

S ; まずは「話すこと・聞くこと」の子どもの実態を捉え、次の5つの項目を基に教材研究をしましょう。



1 子どもを取り巻く言語生活から、適切な話題、題材を見付けます。

○子どもの実態を見て、単元を構成することが大切です。日常生活の、子どものコミュニケーションの様子、授業での発言、聞き方の様子を十分観察し、今までに身に付いた「話すこと・聞くこと」の言語能力を見定めていきましょう。

○教科書単元では、代表的な話題例が示されています。これを学校や学級の実態に合わせ、集会や行事を活用した話題に置き換えていきましょう。教科書単元の話題で共通の学びを行った上で、子どもの必要性に迫った話題を子どもとともに設定し、学習していきましょう。

2 身に付けたい「話すこと・聞くこと」の力を年間に位置付け、創意ある言語活動を設定しましょう。



○指導事項に照らし、まだ十分身に付いていない力に着目して指導計画を立てましょう。その際、学級の子どもが「話すこと・聞くこと」の力を十分身に付けていない時は、前学年までの指導事項をまず復習することも必要でしょう。

○学習指導要領では「話すこと・聞くこと」の言語活動例を次の8例挙げています。身に付けたい力を効果的に導く言語活動を選び、あるいは新たに工夫して設定していきましょう。その際、身に付ける力を見極めるのに役立つのが、教科書（教育出版「ひろがる言葉」令和2年度版）の「ここが大事」です。そこから、学習の「めあて」ももたせていくとよいでしょう。

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
ア 紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 イ 尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。	ア 説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 イ 質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ウ 互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。	ア 意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 イ インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。



学習指導要領の言語活動例を基に、身に付けたい力を考え、どのような活動をしたらよいか考えればいいですね！

3 教科書単元を活用する時は、1年間の教育活動を見比べながら、関連付けて単元を計画しましょう。



○教科書単元の教材例をもとに、地域の実態や年間の学校教育計画から、子どもが興味や関心をもつ適切な話題、題材を取り上げましょう。例えば、6年生の「地域の防災について話し合おう」であれば、総合的な学習の時間の「防災教育」や社会科の学習と関連付けた単元を計画することも有効でしょう。

4 話し合いをイメージできる具体的な「話し合いの例」を例示しましょう。



○どのように話し合うのか、やり取りの場面で役立つのが「話し合いの例」です。教科書にも、子どもの発言が吹き出しで書かれています。実際の「話し合いの例」を、教師が例示する工夫も必要でしょう。このことは教師が子どもの話し合いを評価する際にも役立ちます。

5 対話の力を付けるミニ教材を、日常生活や国語の時間に取り組みましょう。



○「話すこと・聞くこと」の力は、一朝一夕には身に付きません。下学年の教科書教材の単元をミニ教材として活用する（例えば、4年生の『わたしは、だあれ』…ヒントをもとに質問し合い、答えをあてる学習を、高学年で実施する）ことも有効です。



下の学年の教科書も活用できそうですね！
ミニ教材として活用することで、指導事項が確実に身に付けられますね！

Q2 ; 話すこと・聞くことの学習は授業以外でどのように指導したらよいでしょうか。

S ; 国語にこだわらず、他教科・領域も指導のチャンスととらえましょう。

1 「日直のスピーチ」

テーマを設定し、相手意識をもたせます。学年に合わせて、スピーチメモを活用したり、時間を設定したりするのもいいでしょう。低学年は、2文から3文程度で構いません。

テーマ例

「自己紹介」「こんなもの見つけた」「昨日の出来事」「最近の出来事」「おすすめの本」「わたしはだれでしょう?」「すきな〇〇シリーズ」「こんなことあったらいいな」

2 「学級会（特別活動）」

国語の「話すこと・聞くこと」で学んだ話し合い方を生かす場とします。

学級会議題年間計画例

前期		後期	
4月	学級目標を決めよう	10月	学芸会のスローガンを決めよう
5月	運動会のスローガンを決めよう	11月	ロング集会の計画を立てよう
6月	※	12月	※
7月	※	1月	※
9月	お楽しみ会の計画を立てよう①	2月	お楽しみ会の計画を立てよう②
10月	前期の生活をふり返ろう	3月	後期の生活をふり返ろう

※子どもや代表委員会から提案されたことについて、話し合う。

3 その他 日常的に指導できるよう、意識しておくことが大切です。

話すこと



①生活科

例：作ったおもちゃを、友達や下学年に紹介する。
観察したことを、友達に伝える。

②ミニゲーム（ちょっとした時間で実施できます。）

例：「イラスト伝言ゲーム」

お題のイラストを、同じグループの友達に分かりやすい言葉で伝え、ヒントを頼りに、お題のイラストを描くことができるかどうかを競います。

聞くこと



①「読み聞かせ」

本の内容をふり返る活動の中で、聞く力を育てます。

例：内容の感想を発表させたり、内容に関するクイズを出したりします。

②「全校朝会」

校長先生のお話した内容をふり返らせることで「聞く」意識をもたせます。

書くこと

Q3 ; 「書くこと」の授業で、子どもたちの意欲が高まらないことがあります。どのように授業を改善すれば良いのでしょうか。

S1 ; 子どもたちのやる気が下がってしまう原因を考えましょう。指導していてこんなことはありませんか？一緒に考えていきましょう。

【①教科書の例文をそのまま使っていませんか？】



教科書の通り指導しなくてはいけないのね。

授業の場面

教科書の例文と同じ経験をしていないから、ぼくには思いうかばないなあ。



子どもの意欲が高まらない原因の1つに、教科書通りの例文を使っていることがあります。教科書の指導内容に準拠すれば、例文や指導方法はクラスの子どもの実態に即してアレンジしているのです。

「はじめ・なか・おわり」や「起・承・転・結」のように「段落構成」について指導したいなら、指導内容は変えないで、クラスの子どもたちの実生活に合うような例文を、教師自身が書きましょう。そうすることで、子どもたちの意欲は高まり、授業も楽しいものになるでしょう。よく、「教科書を教えるのではなく教科書で教える」と言われますが、正にこのことです。

【②行事が終わってから書かせる作文が多くないですか？】

みんな、学芸会の練習を頑張っていたし、本番はよい演技ができたわ。来週作文を書いたら、たくさんよいことを書けるわね。



授業の場面

確かに学芸会はがんばったけれど、どうして作文を書かなければいけないのだろう。誰が読んでくれるだろう。



行事後には、廊下に子どもたちの作文がたくさん掲示されています。しかし、先生は、あまり目的や相手を設定しないで書かせることが多いです。子どもたちは心の中で「どうして書くのだろうか」と思っているかもしれません。行事作文を書くのならば、目的や相手が生じやすい「行事前」の方が効果的です。

【③子どもが準備不足の状態、いきなり原稿用紙に書かせていませんか？】



「書くこと」は子どもたちも大変だから、下書きなしで清書させましょう。

授業の場面

テーマは、「1年間で振り返って頑張ったこと」です。書く内容が変わる時には、改行して段落を分けましょう。1年間で思い出して、特に頑張ったことや、思い出に残ったことなど、3つ選んで書きましょう。



今年は、運動会で係を頑張ったし、徒競走でも1位だったな。たくさん書けそうだ。

たくさん書いたぞ。先生に読んでもらおう。「よく書けたね。」と言ってもらえるかな。

たくさん書けたわね。でも、主語がなくて、変な文章だわ。直してあげなきゃ。あら、同じことを3回も書いている。ここ消さないで。段落を分けてと言ったのに、できてないじゃない。まったくもう。



一生懸命に書いたのになあ。赤でたくさん直されちゃった。もう書きたくないな。



子どもたちの負担や時数を考えて、清書する場合があります。でも、料理を例に考えると、必ず味見をしながら作ると思います。この味見が作文では「推敲」に当たります。書いては読み直し、読んで書き直して進めます。したがって、推敲ができるような下書き用紙を準備し、下書きしてから清書するという指導をすることで、より満足感が高い作文になります。

S 2 ; 子どもが意欲的に取り組むような指導をしたいのなら、まずは教師が子どもになったつもりで文章を書くことがとても大切です。

教師自身が書くことで、子どもの気持ちが分かります。また、子どもがつまずきそうなところ（＝手立てや支援が必要になるところ）も見えてきます。つまり、具体的な指導方法の見通しが立つようになります。この時に書いた文章は、そのまま例文として用いることができます。子どもになったつもりで、まずは教師自身が書いてみましょう。

S 3 ; 書くことで常に意識しておきたいポイントが8つあります。知っていますか？

【8つのポイント】

- 1 相手意識 …… 誰に読んでもらうのか、誰のために書くのか
- 2 目的意識 …… 何のために書くのか、書いて何を理解してほしいのか
- 3 主題意識 …… 一番何を伝えたいのか、完成文はどんな概要か
- 4 取 材 …… 1～3を踏まえて書く事柄は何か
- 5 構 成 …… 1～3を踏まえて取材をどう組み立てるのか
- 6 記 述 …… 1～5までを踏まえて文章を書く
- 7 推 敲 …… 6と同時に行う
- 8 実用・活用 …… 読み手はどんな反応をしたのか、書いて良かったか

先に紹介した失敗の事例を思い出してください。どこが欠落しているか分かりますか？共通しているのは、

1 「相手意識」 2 「目的意識」 3 「主題意識」

がないということです。逆に考えてみましょう。

1 「相手意識」があったら

家族へ 友達へ 教師へ お世話になった方へ 下級生へなど



子どもの「書こう」とする気持ちが、高まるような気がしませんか？意識するのとしのないのでは意欲が全く違います。

2 「目的意識」があったら

何のために書くのだろう。どうして書くのだろう。

- 例
- ・ 6年生から5年生に向けて、来年度の自然教室の見通しをもってもらいたい。
 - ・ 自分が努力している姿や、見てほしいところをお家の方に伝えたい。
 - ・ お世話になった人へ、感謝を伝えたい。 など

これから書いていく文章は、「誰に読んでもらうのか」、「誰のために書くのか」が明確になることで、「書こう」とする気持ちは必ず高まります。

3 「主題意識」があったら

○書く文章の中で、一番伝えたいのは何だろう。

- 例
- ・自然教室の内容や東照宮の見どころをまとめる。
 - ・努力していることや見てほしいところを書く。
 - ・感謝の気持ちを書く。 など

1 「相手意識」と2 「目的意識」が決まることで、自然と3 「主題意識」が決まってきます。ここまで、書く目的意識が明確になってくると、子どもはきっと、「先生、早く書きたいです！」と言うことでしょう。「書こう」とする気持ちは、4割から6割増しです。

「書くこと」の指導ポイントは全部で8つありますが、「4取材」から「7推敲」までは重視されても、1・2・3のポイントは忘れられがちです。しかし、子どもが主体的に書くためには、見落とすことはできない視点です。もし、これを見落としてしまうと・・・、そうです。S1の「やる気をなくす例」のようになってしまいます。

この3つのポイントはすべて「意識の指導」です。この3つを子どもにしっかりと意識させ作文に向かうようにしましょう。くり返しますが、そのためには教師自身もまず、モデルとなるような文章を書くことが大事であり、これによって良い授業になります。ぜひとも、教師自身が意識して取り組んでみてください。

Q4 ; 「書くこと」で教科書はどのように活用すればいいのですか。

S ; 教科書ではその時期に、何を指導しようとしているのか（指導の目標）、また何時間程度時間（時数）をかけているのか、参考にしましょう。

目次を見たり、年間指導計画を見たりして、「どの時期」に、「何」を「何時間程度」かけて指導するのかを把握して、自分の学年やクラスの学習内容の進捗状況と照らし合わせます。また、各授業時間で、どのように指導を計画しているのか参考にしましょう。

その上で、自分のクラスの実態に、教科書の内容が合っているのか判断します。教科書は、全国向けに標準化された内容になっていますので、クラスの実態と合わないことがあります。無理に教科書の内容で授業を計画し、進めようとする、前述の「書くこと」のポイントと差が生じてきてしまいます。

先の項でも書きましたが教科書を教える」のではなく、「教科書が提示している指導内容に準じて子どもたちに合うように指導法を工夫して授業をする」ことが書くことの指導で最も大切となります。先生の創意工夫が必要不可欠です。

どのように指導すればよいか、なかなか浮かばないこともあるでしょう。そんなときは一人で悩まずに、学年や周囲の先生方に相談してみましょう。



Q5 ; 子どもが喜んで書いたという実践事例はありますか。

S1 ; いろいろな実践があります。ここに紹介する事例はほんの一例にすぎません。ただ、事例から「なぜ」このような取り組みをしているのか、「どんな方法」で書いているのか、「どんな効果」があるのかを読み取ってほしいです。

【〇分間作文】 6 「記述」の力を鍛える取り組み（8つのポイントの6番目）

〇分間と短い時間を設定して、できるだけ多くの文章を書かせます。ポイントは時間が短いため、取り組みやすいです。

書いた後は、「何字書けた」のか、「何行書けた」のか全体で確認します。すると、子どもたちの中に競争意識が芽生え、「次はもっと書きたい！」という思いを起こさせることでしょうか。また、表現の工夫をしている文や、主語述語がしっかりしている文など、その時々で、子どもが書いた文章を紹介すると、俄然、取り組みに熱が入ってきます。

*この他に文字数や行数を指定することもできますね。



【テーマを話し合う】 2 「目的意識」を明確にする（8つのポイントの2番目）

日頃の学校生活を振り返ることや、学習について、他学年との関わり、委員会やクラブ活動、など、子どもたちの問題意識や日常のさりげないことから、テーマを探し出します。話題の提案は教師が行うこととなりますが、「どんなことで書きたいのか」子どもたちに話し合わせることで、「目的意識」が明確となり、主体的に書けるテーマになっていきます。

また、「書くこと」だけでなく、「話す・聞く」の題材に繋げることもできます。

【実体験をテーマに】 4 「取材」（8つのポイントの4番目）

社会科見学、校外学習、体験的活動など、子どもたちが「見て」、「聞いて」、「触れて」、「嗅いで」、「動いて」きたこと自体が、「取材」にあたります。国語の授業として「書く」と狭く考えず、他教科での経験が、「書く」題材にならないか、常に意識しておきたいですね。

子どもたちにとっても、自分の経験に基づくものは、書きやすいものです。

S2 ; 実践例1 「招待状を書く」

よく、行事の後に作文を書くことがあると思いますが、行事の後に書くのではなく、行事の前に書くことで、3つのポイントを押さえた文章を書くことができます。テーマを「運動会」、伝え方は、「招待状」にして一緒に考えてみましょう。（指導したい内容を明確にすることで、評価の視点も明確になりますよ。）



運動会の招待状を書こう。

- 1 相手：お家の人へ
- 2 目的：運動会を見に来てほしい
- 3 主題：見どころやがんばっていること

3つのポイントが決まったらどのように組み立てていくのかを考えます。取材としてメモをとるのもよいでしょう。書くための材料が集まったら、文章として書いていきます。

書き終えてから、推敲するのではなく、書きながら文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文章を整えます。

目的は、お家の人に見に来てほしいことです。当日、応援に来てもらい、がんばる姿を見せることができたことは、招待状を書いてよかったということにつながります。

いかに、書いてよかったと成功体験をさせられるかがポイントです。そのため、教科書にある学習材だけでなく、行事や、校外学習、言語活動など国語だけでなく、他教科とのつながりも意識して、「書く」チャンスを学習材とすると、子どもにとっても取り組みやすい学習になります。

S 2 ; 実践例 世界一おいしい「ラーメン」の作り方

【指導のねらい】

身近な題材を使って取り組みやすくする。

子どもたちが書いた文章から、優れた文章や表現を紹介して書く技術を向上させる。

相手意識をもって書くことで、文章構成を工夫する必然性がうまれる。

【取り組み方】

①自由に書く。(書き方の指定は特にしない)

②週末の宿題として取り組む。



【指導のポイント】

①相手意識：友達に読んでもらうため。

②目的意識：自分が考えたラーメンを紹介して、作ってもらう。

⑤構成：読んでもらう人に、作り方を分かりやすく伝える。

調理工程を時系列にすることで分かりやすく伝える。

(＊調理行程がバラバラだと失敗しますよね。)

⑧実用・活用：自分が書いた文章で、友達に作ってもらう。

世界一おいしい「ラーメン」が作れたか。

【実際の指導について】

①書いた文章を紹介する。

紹介するときのポイント

- ・どんな工夫があったかな。
- ・どうして聞き取りやすいのかな。
- ・どんな言葉があったからイメージできたのかな。

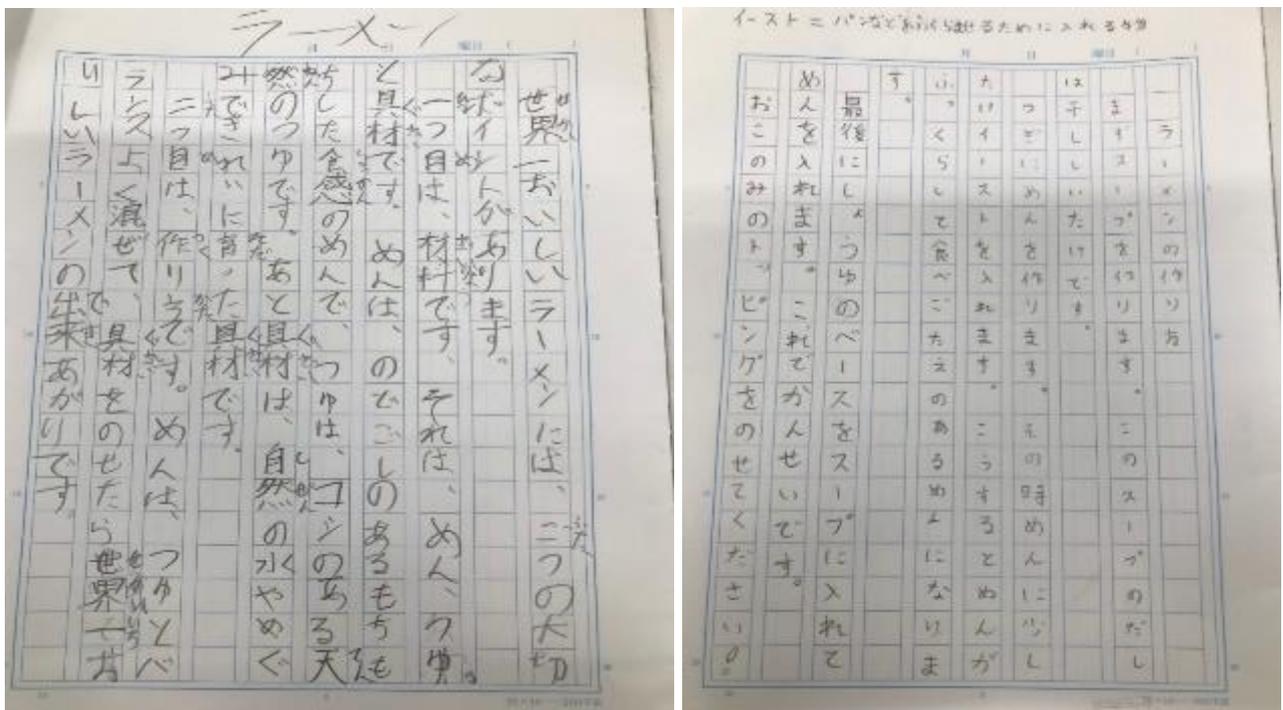
*紹介する時に、「ポイント」を伝えることで、次に書く参考になります。



②点数化して分かりやすく・やる気を引き出す

- 1点・・・まずは課題に「取り組むことができる」
- 2点・・・課題に取り組むとともに、誤字が無く書ける。
- 3点・・・課題に取り組み、誤字無く書き、はじめ・なか・おわり（文章構成を意識）に分けて、文章を書くことができる。
- 4点・・・課題に取り組み、誤字無く書き、はじめ・なか・おわりに分けて、比喩表現（表現の工夫）を使った文章を書くことができる。
- 5点・・・課題に取り組み、誤字無く書き、はじめ・なか・おわりに分けて、比喩表現をできるだけ多く使った文章を書くことができる。

③繰り返し書かせる。（参考となる文章を配布する）



Q 6 ; 「書くこと」の指導内容と学習指導要領との関連を教えてください。

S 1 ; 学習指導要領解説P 2 0 4に系統的に指導内容が書かれています。各社の教科書もこれに準じて作られています。

教科書は、学習指導要領をもとにして作られています。ご存知のように、算数は教科書が違ってても教材はほとんど同じです。しかし、国語は教材が各社とも違います。共通しているのは学習指導要領に掲載されている指導内容です。したがって、教材は違っててもその学年で教える内容は同じなのです。これは国語の教科書特性かもしれません。具体的に『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』のP 2 0 4（表1）を見てみましょう。

その表（下記）には、各学年の指導目標と学年段階の系統性が載っています。指導内容は、各学年の指導目標を基にして決めていきます。これが評価規準や指導内容の視点になります。

各学年でア～カまでの目標がありますが、全ては指導できません。1つの単元において、重点的に指導することを3つ程度設定します。

低中高学年の指導目標（系統性が確認できます。）

B 書くこと		(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。				
題材の設定	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。	(例)「はじめ」「なか」「おわり」の構成に関わる指導目標・内容
情報の収集				
内容の検討				
構成の検討	イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考へること。	イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考へること。	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考へること。	
考えの形成	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	(例)「なか」は具体例を挙げて書くに関わる指導目標・内容
記述			エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	
推敲	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。	
共有	オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	縦列の「題材の設定」「情報の収集」など8項目は、指導の段階、単元の構造として見ることができます。

表1 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編 P204 より

S2；事例を通して、8つポイントを意識して授業の流れを考えます。

○題材について

5年生社会科の学習内容『工業生産とわたしたちのつながり』で、校外学習に行きました。この機会を「書くこと」の学習として教材化しました。社会科と総合的な学習の時間との関連があります。



○「相手意識」・「目的意識」・「主題意識」

校外学習で貴重な体験を提供してくださった方に対して、「お礼の手紙を書きたい。」「学んだことをポスターにまとめたい。」という児童の思いがあり、自然と定まりました。

○学習を通して何ができるようになるのか（身に付けさせたい力）

ねらいとしたのは、

- ①「説明を聞いて学んだこと」、「もらった資料を通して学んだこと」を具体的に書くこと。
- ②学んだ具体的なことから、自分はどんなことを考え、感じたのかを書くこと。
- ③文章構成をはじめ・なか・おわりで書くこと

○「取材」

いざ、書いていくためには、書く材料を集める「取材」が必要です。今回は、「説明で聞いたこと」と「いただいた資料」を活用しました。

また、どんな説明を聞いたのか、どんなものを見たのか、どんなことを考えたのか、黒板で振り返りながら「マインドマップ」にして可視化しました。

○「文章構成」

- ①教師が自分で作成したモデル文を提示して、学習の見通しを立てる。

はじめ ⇒ どんなことをしたのか

なか ⇒ 学んだ具体的事例と、自分が考えたこと

おわり ⇒ 感謝の気持ち

- ②書きたい事柄を1～3つ程度選ぶ。

「マインドマップ」を活用して、先にまとめた事柄を選び、どの順番で書くのか、検討もしました。

○「記述」と「推敲」

構成が固まったので、実際の文章を書いていきます。いきなり、清書用紙に書くのではなく、下書き用紙に書かせます。この時、「文と文の間は、1行ずつ飛ばして書いていきます。」と指示を出しました。なぜでしょうか。

答えは、「推敲」するスペースを作るためです。一般的な原稿用紙は行間が狭いため、字や文章の直しを入れると、訳が分からなくなります。それを防ぐために1行飛ばしで書かせていきます。書き上がった文章を子どもと一緒に読みながら、書き方や表現の工夫などを、そのスペースに書き入れていくことにより、推敲が進んでいきます。

「記述」は、全部書かせるようなことはしません。はじめ・なか・おわりの構成ごとや、内容のまとめごと、段落ごと、など文章の1区切りつくようなところで、必ず教師のチェックを入れるようにします。そうすることで、細かく指導を入れることができますし、どんどん書ける子と進みがゆっくりな子との時間差を調整することができます。また、段落指導もしやすくなります。子どもにとっても、間違っただけでもすぐに直すことができるメリットがあります。

- ・この單元では、はじめ・なか・おわりの構成を使って書かせたい。
- ・なかは、学んだ具体例を挙げて書かせたい。
- ・さらにそこから自分が分かったことや考えたことを書かせたい。



*ここで気付いてほしいのですが、「記述」と「推敲」はポイントでは、別になっていますが、実際に書いている工程で考えると、ほぼ同時に行っていることとなります。さらに、「推敲」を進めると、時には「構成」を考え直すことにもなります。「構成」「記述」「推敲」は、ほぼ同時に進んでいきます。

*「記述」していくのにあたって、「書き進まない…」「構成はできているのに、なぜ。」取材であれだけたくさん調べたのに…。」ということはありませんか。

それは、「取材」「構成」と「記述」の間には、大きな崖があるからです。「取材」や「構成」は、文章ではなく短い言葉や、キーワードで考えることが可能です。骨格的なイメージです。

「記述」になると、言葉や表現の工夫を次々と骨格に肉付けしていき、文章としていきます。つまり原因は、どう文章にしているのかわからないというところです。

そこで、「取材」「構成」と「記述」の崖に太い橋を架ける教師の支援が必要です。

①友達に、自分が考えていることを話す。(口述筆記をする。)

どんなことを考えているのか、ペアやグループで話をさせます。

話せたこと自体が「記述」の文章になります。

②書き出しの文を提示する。

書き始めを示すことで、書き進む場合があります。

③モデル文を示す。

教師の文を示すことで、どのように書き進めていけばいいのか、参考になります。



なか①

はじめ

か が で す。	も 大 き い の に こ れ で も 低 め に 建 て が れ て い る	せ な ら ば こ の こ と を 知 ら ず お ど ろ き ま し た。	私 は こ の こ と を 知 ら ず お ど ろ き ま し た。	計 画 さ れ て い ま す。	と 近 い の で 、 ガ ン ト リ ク レ ー ン は 低 め に 設 計	4 基 あ り ま す。	こ こ に 品 川 ふ 頭 は 羽 田 空 港	ハ ー ス 、 水 深 が 10 m 、 ガ ン ト リ ク レ ー ン が	ナ ル で す。	1967 年 に 建 設 さ れ て 、 延 長 355 m 、 3	品 川 ふ 頭 は 日 本 で 最 初 に 作 ら れ た ウ ー ン	最 初 は 品 川 ふ 頭 の こ と に つ い て で す。	た こ と も あ り ま す。	た こ と 、 見 た こ と の 中 で 、 特 に 心 の 中 に 残	た こ と 、 その 時 に い た だ い た 資 料 や お 話 し て こ ら	の り も の よ い も せ ず と も 安 く 乗 れ ま し	回 日 で す。	で す が 、 今 回 は 1 回 目 と も あ り ま す。	と う ご ざ い ま す。	今 回 で 、 船 に 乗 る の は 、 2	十 月 六 日 は 船 に 乗 ら せ て い た だ き あ り が	港 湾 車 務 所 の 皆 様 へ
-------------------	--	--	--	---------------------------------------	--	-----------------------------	--	--	-------------------	--	--	---	---------------------------------------	---	--	---	-------------------	---	----------------------------------	--	--	---

なか③

なか①～④ で具体的事例を挙げています。

なか②

次は見たもの、感じたことについてです。私の見たもの、感じたことの中で一番印象に残ったのは、コンテナ船です。テレビやネットで見ただものよりも、と大きいのでびっくりしました。

後で調べてみると、一番大きい船で長さ400m、幅は58.8m、40フィート(12m)のコンテナが2万個ものろそうです。長さは東京タワーよりも大きく、ははは学校の校庭ほどもあります。私は東京タワーの階段をのぼったこと

があるのですか、その時とてもつかれたので400mもあったらどうなるかなと思いました。

最後は、生活と貿易のことについてです。日本の貿易量の96%は、なんと、船で運んでいます。だから、飛行機は、0.4%しか運んでいないということですね。それに、輸入物の62%は輸入です。ということは、スーパーの中、62%の食料は外国産だということです。

しかも、資源、原材料の大半は輸入です。いつも食べているパン、その材料の88%は

おわり

輸入です。節分まで置いてある豆。その93%は外国産です。このじき必要にな、てくるセーター、その材料の羊の毛は、100%輸入です。いつも外を走、ている車。その材料の99%外輸入です。このように日本は生活のほとんどを貿易にたよ、っていることに気がきます。

私は、これを知、てもし貿易ができなくなると、大変なことになると思います。貿易はとても大切なことになりました。そして、その貿易で運んで来たコンテナを荷揚げする、港施設

の大切さも知りました。

船に乗せていただいたこと、このようにたくさんのごとを学ぶことができてきました。見学させていただきました。本当にありがとうございます。

S3 ; 手紙を生かして、グループで原稿を分担し、レイアウトを相談して、ポスターにまとめました。(模造紙1枚)



時数としては、国語の書く時間だけでは十分ではなく、社会科と総合的な学習の時間とも関連させながら進めました。

この学習を通して文章構成を考える力、情報をまとめる力、情報と情報を関連付ける力など、書く以上の学びが身に付いたと思います。

国語の枠にとどまらず、他教科との関連を図ることで、ねらっている以上の力が付くのだなと実感しました。

* 「書くこと」の言語活動には、低・中・高学年ごとに様々な活動があります。今回取り組んだ、港湾事務所の方に「手紙を書く」は、中学年の言語活動事例（『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』P204参照）になります。ただ、学習のねらいを達成するには、「手紙を書く」が最適な言語活動であると判断して学習に取り組みました。手紙の内容は、高学年の指導事項を入れて書きました。

言語活動の事例が示されていますが、必ずその活動をしなければならないということではありません。自分の学年で指導する内容を、「どのような言語活動を設定するのが最適なのか」、「子どもが「目的意識」「相手意識」「必然性」をもって学習に取り組める言語活動は何か」を考えて、単元の計画を立てることが大切になると思います。どれが最適なのか、判断が難しい時には、経験豊富な先輩に聞くといいでしょう。

読むこと
—文学的な文章—

Q7 ; 「文学的文章」の基本的な教材研究の仕方を教えてください。

S ; 以下のような教材研究しています。

「スイミー」の例

	調べること	例
1	<p>教材文を読みこむ。 (オリジナルの赤本を作る。)</p>  <p>ワードで打ち出し、全文シートを作成します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートに一行おきに全文を視写し、行間に自分で気付いたこと赤ペンで書き込む。 (疑問に思ったことや、登場人物が考えたこと、情景描写からわかることなど)
2	<p>題名から感じた物語の内容を想像する。</p>  <p>イメージでいいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・誰かの名前かな。 ・主人公スイミーの生涯かな。 ・スイミーの冒険記だと思うなど。
3	<p>作者について調べる。 (生い立ち、経歴、他の作品)</p>  <p>作品に込められた思いを知る手掛かりになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作者：レオ・レオニ ・1910年オランダ生まれ 1945年アメリカ国籍取得 1999年イタリアで没 ・「あおくんときいろちゃん」「フレデリック」「アレクサンダとぜんまいねずみ」他多数
4	<p>あらすじを捉える。</p>  <p>音読を何度も行うとあらすじが頭に入ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・兄弟が大きな魚に飲み込まれ、独りぼっちになってしまったスイミー。海を旅している中で出会った仲間たちと、大きな魚に立ち向かい追い出した話。
5	<p>初発の感想の書かせ方を考える。</p>  <p>ポイントは、あらすじをとらえた後に書くことです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初読では書かせない。 ・子どもがあらすじをとらえてから書かせるようにする。 ・箇条書きにならないように注意する。



教材についてつかむことができると、単元のゴールや、主発問、単元計画が立てやすくなると思います。指導書には、作者や参考文献が載っています。自分の計画や、読み取りの確認として活用することができます。

Q 8 ; 「読む」学習で、系統性をもたせた指導とはどのように行うのですか？

S ; どの物語文で何を教えるのか、1年間や6年間の見通しをもちましょう。

例えば、年度初めに以下のような表を作り、どの教材では何を教えるのか、明確にしておくとい
いです。

<1年 教育出版 物語文>

自分なりの言葉で
まとめます。

教材名	ねらい	主な用語	例示されている言語活動
「くまさんと あり さんのごあいさつ」	登場人物の声の出し 方を変えて音読する。 (大きい文字は大き い声、小さい文字は小 さい声。)	音読 	算数のように、どの用 語をどの学習材で指導 するのか整理すると、 指導しやすいです。
「けむりの きしゃ」	文章と挿絵を結び付 けながら、話の内容を とらえる。	物語文 題名 場面	
「おおきな かぶ」	繰り返しの展開を楽 しみながら音読する。	登場人物、中心人物 会話文、地の文 繰り返し	
「けんかした 山」	登場人物の様子や行 動を想像する。(漢字 初出)	作者 会話文(言ったこ と)、行動描写(した こと) 気持ち、様子	音読発表会
「うみへの ながい たび」	時を表す言葉に気を 付けて、できごとの順 序を確かめながら、誰 が何をしたのかとら える。	時、場所	写真からお話を考える (書く・次单元「きこえて きたよ、こんな ことば」
「スイミー」	はじめとおわりを比 べ、話の中で変わった ことを考える。	出来事(事件)	動物の出てくる本を読ん で、紹介する
「お手がみ」	登場人物の顔や身ぶ りから、様子や行動の 理由を考える。	好きなところ 会話文(言ったこ と)、行動描写(した こと) 気持ち、様子	登場人物に手紙を書く

Q 9 ; 詩の授業はどのように指導すればよいのでしょうか。

S 1 ; 6年間を見通した指導計画を立てましょう。

【学習指導要領に示された言語活動例】

<書くこと>

- (3・4年) 「ウ 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。」

<読むこと>

- (3・4年) 「イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。」
- (5・6年) 「イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。」



◆学習指導要領では、上記のように詩に関連する言語活動例が示されています。「詩の創作指導」と「詩の鑑賞指導」を、年間を通じて計画的に行うことが必要です。

詩の学習では、詩を作ったり、詩を読んで考えたことを友達と伝え合ったりする活動をするのですね。



詩を作るとき (詩の創作) のポイントや、詩を読むとき (詩の鑑賞) のポイントが知りたいです。

◆「詩の創作指導」では、詩が凝縮した表現であること、普通の文章とは違った改行のしかたや連による構成になっていることなどの基本的な特徴を踏まえて、感じたことや想像したことを書く活動を行います。

◆「詩の鑑賞指導」では、詩の中の登場人物や語り手の行動や気持ちなどを説明したり、それらを基に考えたことや具体的に想像したことなどを文章にまとめたり発表したりする活動を行います。



これらの指導を行うために、6年間を通して、次の「詩の表現技法」と「読みの観点」を身に付けさせることを前提として教材を研究し、授業の計画を立てていきましょう。表現技法の学習は、音読を繰り返し、子どもの頭の中に詩の世界が思い浮かぶようになってから進みます。

- ①繰り返し (反復・リフレイン) ②リズム (音数) ③倒置法 ④比喻
- ⑤擬声語・擬態語 (オノマトペ) ⑥対句 ⑦文末表現 ⑧語り手 (話者)
- ⑨題名 ⑩連

①「繰り返し (反復・リフレイン)」

同じ言葉や文を2回以上繰り返し使うことです。強調したり、リズムを整えたりする働きがあります。

②「リズム (音数)」

音数の同じく言葉を規則的に並べることによって生じる調子のことです。5音と7音がよく使われます。

③「倒置法」

語順を逆転する表現です。「主語と述語」「修飾語と被修飾語」「独立語」の3つがあります。

④「比喻」

「まるで」「ようだ」などを用いる「直喩」と、用いない「暗喩」があり、イメージが広がる効果があります。

⑤「擬声語・擬態語 (オノマトペ)」

音を写し取った「擬声語」と物事の状態を表した「擬態語」があります。独特な響き・調子を作ります。

⑥「対句」

同一または類似の構造をもつ句を並べることです。音数がほぼ等しく、対比または対応的な意味をもちます。

⑦「文末表現」

文末を体言(名詞・代名詞)で終える「体言止め」があります。強調・余韻・リズムの変化などを生みます。

⑧「語り手 (話者)」

作品を語り進める人のことです。どこから、何を、どんな見方で表現しているかを読む視点とします。

⑨「題名」

詩の内容を端的に表すものです。作者の思いや願いが込められていたり、題材そのものであったりします。

⑩「連」

詩の中の意味のまとまりのことです。連と連の間は1行あけます。1連、2連と数えます。



こういった「詩の表現技法」や「読みの観点」を意識して、6年間の中で繰り返し指導していくことが大切なのですね。

「詩の表現技法」や「読みの観点」が大切なのは分かっていたけれど、これらをどのように「鑑賞指導」と「創作指導」に生かしていけばよいのですか？



S 2 ; 「詩の鑑賞指導」と「詩の創作指導」を組み合わせる指導しましょう。



◆ 「詩の鑑賞指導」

1 「題名」に着目しましょう。

どのような詩の内容か、詩を読む前に想像して、詩に対するイメージを膨らませましょう。

2 音読しましょう。

「範読」→「一人一人音読」→「全員で音読」します。「全員で音読」する際には、列ごと・班ごと・一行ずつ・連ごとに人数を増やしていく等変化をつけ、スラスラと読めるようになることを目指します。また、内容の理解だけでなく音読を繰り返す過程で、言葉のリズムや響き合いにも意識を向けさせ自然と「表現技法」の理解へとつなげていきます。

3 詩中の言葉からイメージしたことを書き込みましょう。

書き込んだ内容は、グループで交流し、その後学級全体で共有しましょう。全体で共有したことを基に、作者が表現したかったことや題名に込められた思い、作者は何に感動しているかなどを考え、作品全体を読み取っていきましょう。

春のうた

ほっ まぶしいな。
ほっ うれしいな。
みずは つるつる。
かぜは そよそよ。
ケルルン クック。
ああいにおいだ。
ケルルン クック。
ほっ いぬのふぐりがさいている。
ほっ おおきなくもがうごいてくる。
ケルルン クック。
ケルルン クック。
【感想】この詩はカエルが主人公だと思えます。目をつぶり、耳をすませば、春の花がさく様子が目に浮かび、生き物の鳴き声も聞こえてくるようです。「まぶしいな」というところでは、にっこり笑っている太陽が感じ取れまし
...

ウキウキしてきたな。
今日一日が楽しんだ。

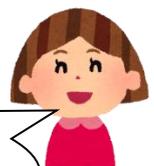
自然は大きないな。

何のおいだらう？
自然のおい！
花のおい！
うれしそうなき声！

春の始めの合図。

待ちに待った春だ。

草野 心平
やわらかい春の太陽。



何度も音読してイメージしたことをたくさん書き込みました。

◆ 「詩の創作指導」

1 五感をフル活用して、対象をよく観察しましょう。

感覚をフルに活用して体感することが大事です。「虫メガネを使って見る。」「車の音、鳥の鳴き声、風の音を聞く。」「においを嗅ぐ。」「さわり心地を確認する。」などして、そこから気付いたことを、言葉で表現していきましょう。



いろいろな感覚を働かせるとたくさんの気づきがあります。また、子どもそれぞれで、感じ方が異なることを共有することで、新しい気づきも生まれます。

2 具体的な言葉で表現しましょう。

詩で表したいことを単に「すごい」、「きれい」、「おもしろい」などと直接的な表現をせず、何かに例えるなど、具体的な言葉を用いて表現するようにしましょう。その際、教科書の詩で学習した比喻などが使えないか検討するとよいでしょう。

3 表現を工夫しましょう。

自分の思いや感動を詩で表すために言葉を吟味していきます。そのためには、言葉のもつ意味をよく考えたり、言葉の響きやリズムを感じたりすることで、言葉に対する感覚を研ぎ澄ませていくことが大切です。「詩の鑑賞指導」で学んだ「表現技法」が活用できないか検討し、工夫した表現を目指しましょう。

【つくった詩のしようかい】
さくらの木にさいていた
花がちってしまったことを
詩にしました。
花がちると少しさみしい
気持ちになりますが、そこには
もう葉が出てきています。
わたしはこの詩で、命は続
いていくということを伝え
たいなと思いました。

さくらの木
このまえまではあんなに
きれいに さいていたのに
ヒラヒラ
ヒラヒラ
ちって どこにいったのか
でもつぎは
あざやかな緑色の
葉がでてきたよ
来年また会おうね

詩の読み方や、作り方が分かりました。
詩を作ることが、とても楽しくなりました。



Q10；文学的文章は、どのような手順で、授業を組み立てればよいですか。

S1；まずは、「子どもの実態」をとらえ、「単元の目標」を明確にしましょう。

(1) 「子どもの実態」を捉えます。

- 教材とする物語文の内容や書き表し方に対する子どもの興味・関心、読書、これまでの物語文の学習経験とその実態を捉えましょう。
- 単元を通して、どんな読み手に育ててほしいか教師の願いや意図を明らかにしましょう。



(2) 「単元の目標」を設定します。

- 年度当初に設定した単元の目標を基にして、子どもの実態と教材の特色、設定する言語活動を基に「単元の目標」を設定しましょう。

(3) 課題追究的な学習過程を想定して「単元のゴール（活動のゴール）」を明確にします。
（言語活動の選定）

- 「単元のゴール」を明確にして、子どもが最終場面でどのようなことができるようになればよいかを考えましょう。
- 子どもが「なぜ読むのか」「どう読むのか」「読んでどうするのか」の必然性を意識できるようにしましょう。

(4) 「言語活動」を分析します。

- 「単元の目標」を達成させるためには、どんな具体的な「言語活動」ができればよいか、分析しましょう。

(5) 「単元の評価規準」を設定します。

- 言語活動の特徴となる具体的な活動の中で、単元の目標に直結する活動が「単元の評価規準」となります。

S2；「単元のゴール（活動のゴール）」を目指した「読みのめあて」を設定しましょう。

(1) 単元全体の「読みのめあて」を設定します。

- 「単元のゴール（活動のゴール）」を目指すために教材を読んでいくことを確認し、そこから単元全体の「読みのめあて」を導きましょう。



(2) 一単位時間の「読みのめあて」を設定します。

- 教師の範読後の「初発の感想」を次の2つの視点で子どもに書かせましょう。
 - A「おもしろかった・感動した・びっくりした」等の感想。
 - B「疑問に思った・不思議に思った」等の感想。
- 子どもに感想を発表させながら、教師が意図的に板書し、感想をAとBがどの場面にあるのか分類・整理していきます。
- これらの感想を基にした「読みのめあて」を一単位時間ごとに振り分けます。

Q11；一人で行う音読以外に、工夫した音読方法がありますか？

S ；学習過程によって、音読のさせ方を変えましょう。



学習過程によって、とはどういうことですか？



学習指導要領による学習過程（構造と内容の把握→精査・解釈→考えの形成→共有）で考えてみましょう。

学習指導要領による 学習過程	音読のさせ方（例）
<p>構造と内容の把握</p>	<p>追い読み まだ音読に慣れていない段階では、まずは追い読み（教師の後に続いて子どもが音読する。）をして、確実に音読できるようにしていきます。</p> <p>一文交代読み 慣れてきたら、教師と子ども、男子と女子…など、パターンを変えて、何回も音読していきます。</p>
<p>精査 解釈 考えの形成 共有</p> <p>※精査・解釈をやったからもう1度、構造と内容の把握にもどる、などといった場合もあります。</p>	<p>自分のペースで音読（黙読の場合もあり） 一斉ではなく、自分のペースで音読します。読みの課題についてじっくり考えながら、物語の内容をおさえる必要があるからです。場面だけ音読するか、全文を音読するかは、その時間の課題によって変わってきます。</p> <div data-bbox="518 1422 1364 1624" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>高学年の場合、音読ではなく黙読しながら考える場合もあります。（4年生の夏からは、音読より黙読の方が読みの理解が早くなると言われています。）</p> </div> <p>役割音読 音読発表を言語活動に設定している場合、グループで役を交代して音読させる方法もあります。（1人はおじいさんの言葉、1人はおばあさんの言葉、1人は地の文というように。）必ず全部の役を読めるように、交代して音読させます。</p>

Q12；出てきた子どもの発言を、どうしたらうまく集約して授業に生かせますか。

S ；子どもの発言を事前に想定しておき、板書計画を立てましょう。

発問に対して、教師が自分なりの答えをもっておくこと、子どもの答えを十分に予想し、板書計画を立てておくことが必要です。叙述をもとに読めているかが大事です。叙述から離れてしまっている読み、誤った読みについては、子どもに検討させます。

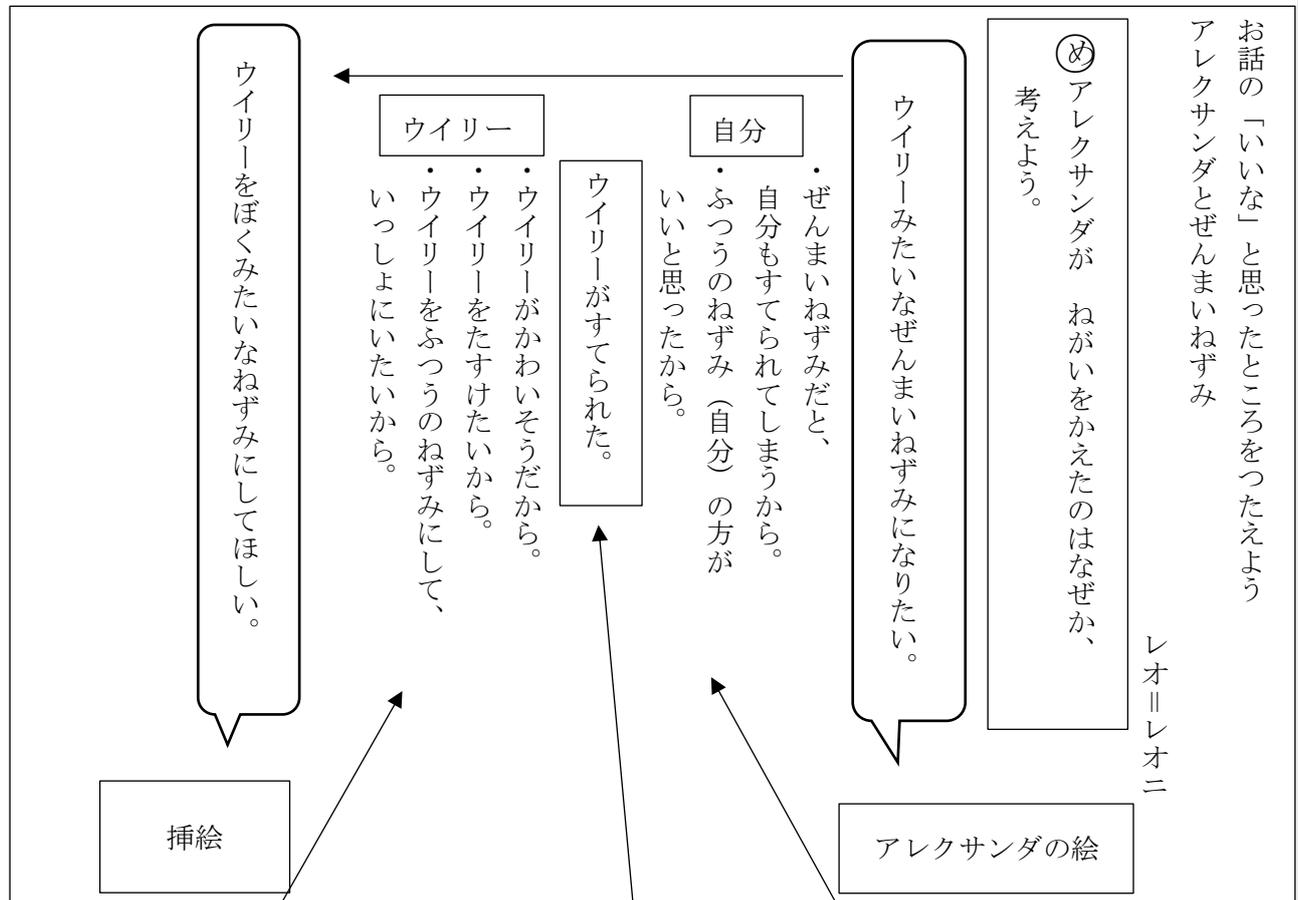


出てきた発言を、うまく板書にまとめられなくて、困っています。



ただ羅列して書くのではなく、出てきた意見をこちらで分類していきましょう。

【例；教育出版2年 「アレクサンダとぜんまいねずみ」の板書】



2 ウイリーのことを考えての思いが出てきたら、こちらに書く。(ウイリーのため、と考える子が多いので、こちらが最初に埋まっています。)

1 子どもの発言から、ウイリーがすてられたことがきっかけになっていることを引き出す。

3 自分のことを考えての思いが出てきたら、こちらに書きます。(意図的指名により、自分のことも考えているということに気付かせます。)

※数字は、子どもから出た発言を板書する順番です。

Q13；物語の読みは、場面ごとに区切って読ませるのですか？

S；全文まるごと読むことを意識させましょう。読みのめあてを先に設定し、めあてに即した場面を読む（一場面とは限らない）ようにしましょう。

できるだけ全文読み（まるごと読み）を行います。全文シートを作成すると、作品全体を俯瞰的に見通すことができ、全体の構造を把握しやすくなります。物語の学習では、場面と場面との移り変わりや山場、出来事と出来事の因果関係、人物の行動や気持ちの変化、人物像などを考えるので、その場面だけを読んでいたのでは、理解できません。ただし、その時間の課題によっては、場面を区切って読むこともあります。（例えば、「ウイリーは、どんなねずみか。」など、お話の設定を確認したい時は、はじめの場面のみというように。）

<全文シートの例；教育出版2年「アレクサンダとぜんまいねずみ」>

The image shows a page from a textbook with a full-text sheet for the story "Alexandra and the Windmill Mouse". The text is annotated with various symbols and boxes:

- Red circles and arrows highlight specific words and phrases.
- Blue boxes are placed around certain sentences.
- Handwritten notes in blue ink are present in the margins and between lines.
- There are several "さし絵" (illustrations) boxes, some of which are empty.
- A red circle with a dot is placed at the beginning of a paragraph.



全文シートは、どのように使うのですか。



サイドライン、囲み、矢印など、課題に応じた印や記号を記入します。考えたことなどの文章は、ノートに記入させます。

Q14；読書の意欲を高める効果的な方法は？

S ；隙間時間を活用する方法があります。

そもそも、教師自身、本が好きですか？子どもに、ただ「読書しましょう。」と言っても、読まされているだけで、根本的な解決にはなりません。まずは、教師自身が、色々なジャンルの本を読み、読書の面白さを知ることからスタートしてみたいかがでしょうか。

隙間時間の有効活用例

1 国語の言語活動を活用して、ビブリオバトルや、ポップ作成をするなど、意図的に本に親しむ機会を設けるようにします。

2 教室の一角に おすすめ本コーナーを設け、季節に関連する本や学習に関連する本、教師のおすすめ本などを、ブックスタンドに置きます。朝の会や、授業の初めに、一言本の紹介をします。

3 「この本おすすめ」カードを子どもが書き、教室に掲示します。同じクラスの子がおすすめの本ということで、興味・関心が高まります。

4 読書が定着している子どもには、読んだ本をジャンル分けします。好みの本の傾向が分かると同時に、偏りも見えてくるので、幅広い読書をさせるのに効果的です。

5 国語の物語文／説明文には、原作があります。作者（筆者）の紹介を指導計画の1時間に位置付け、ブックトークを行います。この方法は、物語文には特に有効で、関連読書にも繋がります。ブックトーク後は、教室の一角にコーナーを設け、いつでも子どもが本を手にとることができる環境を作っておくと、休み時間などに本を読むことができます。

読書は「分厚い本」や「挿絵のない文字ばかりの本」でなければいけないというのが、読書を苦手とする子どもが抱く読書のイメージです。本であれば、よいのです。大事なことは、本との「出会い」や読書をする「きっかけ」を、私たち教師がサポートするということです。



読むこと
—説明的な文章—

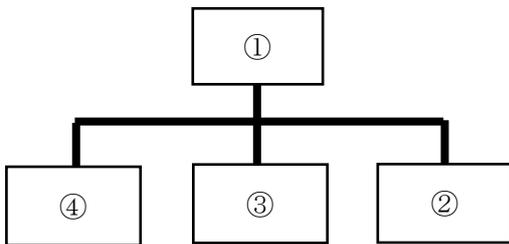
Q15 ; 説明文の教材研究の仕方が分かりません。

S1 ; 指導する説明文の内容と構造を把握しましょう。

文章の構造は大きく3つに分けることができます。教材研究の第1歩は、教材文の「段落構成図」を書いて構造を調べることです。形式段落に番号をふり、つながりの様子（段落相互の関係）を樹形図のように表します。以下は基本的な例です。

1 【頭括型】

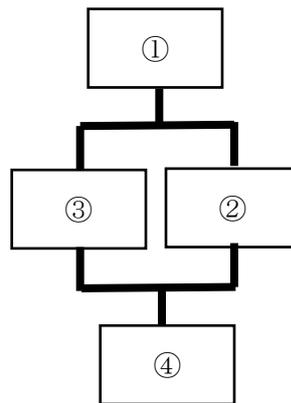
結論が文章の冒頭にあるタイプ



低学年の文章で見かけます。
冒頭に結論を述べた後、結論を裏付けるための、説明を行います。

2 【尾括型】

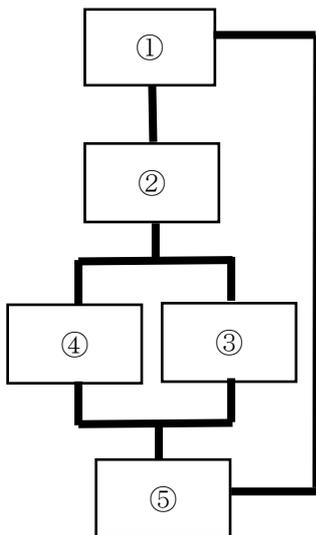
結論が文章の終盤にあるタイプ



大半の説明文は、終盤に結論やまとめが書いてあります。
①は問題提起、②、③で具体的事例、④それを通して言える結論と、文章を総括するまとめの形です。

3 【双括型】

結論が冒頭と最後、2回にあるタイプ



①結論から始まり、もう一度結論で終わるタイプです。小論文の書き方に似ているでしょうか。①で結論、②で問題提起、③④は具体的事例、⑤もう一度結論やまとめをする形です。

全ての文章が、このモデルに当てはまるというわけではありません。

実際に、教材文の形式段落が「話題提供」「問題提起」「具体的事例」「まとめ」「結論」のどれに当てはまるのか考え、それぞれの段落がどのような関係になっているのか、図にまとめると指導が一層深まります。

学年が上がるにつれて、指導が難しくなるのは、段落のつながりが複雑になっていくためと言えますね。



S 2 ; オリジナル指導書を作しましょう。

- 形式段落に番号をふります。
- 「はじめ・なか・おわり」に分け、文章の構造に応じて3部構成に分けます。
- 題名を参考にキーワードを探します。キーワードは、同じ意味の言葉が言い替えていることもあります。
- 指導書で指導事項がそれていないかなど、確認するとよいでしょう。

教科書の文をこのように並び替えてみると、問いに対するの答えが分かりやすくなります。段落番号をつかって文章構成図を書くことでも文章の構成を捉えることができます。

ショベルカーは、じめんをほったり、けずったりするじどう車です。	じどう車には、いろいろなものがあります。どのじどう車も、やくわりにあわせてつくりになっています。いろいろなじどう車のやくわりとつくりを見ていきましょう。	この説明文の場合は、先に結論が述べてあります。あとの文章は事例です。
ポンプ車は、水をつかってかじの火をけすじどう車です。	やくわり(はじめ)	はたらく(おわり)
ショベルカーは、じめんをほったり、けずったりするじどう車です。	なか	おおぜいのおきやくをのせて、こぶじどう車です。
ショベルカーは、こうじのときに、うでとバケットをうごかして、土をけずり、べつのぼしよにはこびます。	つくり(なか)	大きなききさきがあります。
ショベルカーは、こうじのときに、うでとバケットをうごかして、土をけずり、べつのぼしよにはこびます。	おおぜいのおきやくをのせて、きまつたみちをあんぜんにはしります。	大きなききさきがあります。
ショベルカーは、こうじのときに、うでとバケットをうごかして、土をけずり、べつのぼしよにはこびます。	おおぜいのおきやくをのせて、きまつたみちをあんぜんにはしります。	大きなききさきがあります。
ショベルカーは、こうじのときに、うでとバケットをうごかして、土をけずり、べつのぼしよにはこびます。	おおぜいのおきやくをのせて、きまつたみちをあんぜんにはしります。	大きなききさきがあります。

最終ゴール 言語活動として

例えば、教科書の文章の書きぶりをまねて、自分が調べたい乗り物について書くというゴールです。あらかじめ、身の周りにある乗り物について子どもたちに探させたり、一緒に探したりしておく、最終の活動に取り組みやすくなるでしょう。

例えば・・・

- 廊下掲示「1年生乗り物博物館」
 - 図書室に展示
 - 幼稚園、保育園との交流 など
- 相手意識をもたせることが大事です！！



「早く書きたい!」「もっと書きたい!」につながります。

☆指導の重点☆



①読む時間の確保

指導する前にしっかりと読む時間をとり、宿題や朝などの時間に教材文に触れさせておきましょう。

②題名と絡める

説明文を読むときには、常に題名と絡めながら読むことが重要です。題名が文意を凝縮（要旨の役目）していることが多いからです。

③文章全体を読む

本時の段落だけではなく、前に戻ったり、その後どうなるのか想像しながら読んだり、段落の前後の文章にも触れます。

④叙述に即して読む

どの文章からそう思うのか、文章に立ち返ります。また、図や写真と対比して読んでいきます。

⑤キーワードを探す習慣をつけさせる

②の題名と絡めて読ませることに関連しています。何回も登場する言葉が「キーワード」です。キーワードが連続しているところが一つの意味段落になります。そのキーワードが別のキーワードに替わったら、次の意味段落に入ったと考えられます。

⑥単元のゴールを明確にする

「なぜ読んでいるのか」「読んでどうするのか」など、最終活動に向けて授業の中で子どもに意識させていきます。

Q16；デジタル教科書をどのように使っていますか。

S；様々な機能が搭載されています。いろいろ試してみるといいと思います。

①挿絵機能の活用

必要な挿絵や資料などをモニターに映し出すことができます。プリントアウトする手間が省けますね。



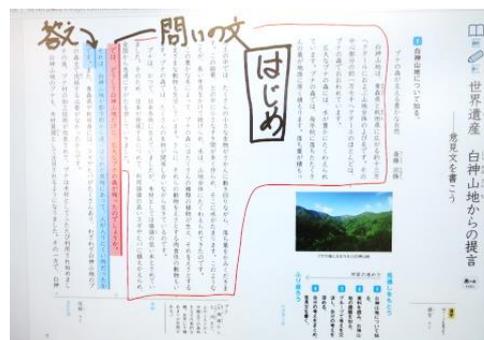
②サイドライン

毎授業、教科書を拡大印刷する必要がなくなります。書き込みも画面上でできるため、子どもが自分の教科書を見比べながら確認できます。

③朗読機能

教科書の文章を読み上げる機能です。プロはどのように読んでいるのか聞く、音読の上達にも役立ちます。

*教師の範読も大切です。あまり使いすぎないように。



便利な機能がありますが、子どもにとって効果的な活用なのか振り返りながら、使いましょう。

Q17；説明文のめあては、どのように立てればよいですか。

S ；基本的には、物語と同じ流れで考えます。特に意識したいポイントが2つあります。

①説明文の「内容の読み取り」

②筆者の「書きぶり」（表現の工夫）です。

子どもは、説明文の「内容」に大変興味をもちます。内容を読み取ることが、第1の学習活動になります。さらに、説明文の指導で大事なのが、筆者の「書きぶり」（表現の工夫）です。筆者は「どのような文章の構造」で、「どのような言葉を使って」「どのような技法をつかって」自分の主張を読者に伝えようとしているのか、教師が教材研究を深めて、授業を計画することが大事になります。そのために、

○子どもに身に付けさせたい力を明確にする。

例・目的に応じて、必要な情報を見付けることができる。

・理解したことから、自分の考えをまとめることができる。



言語活動は、『意見文』にしよう！

○○について、自分の意見を友達に発信しよう

言語活動に向けて、自分たちがその活動を達成するために、何が必要なかを考えさせましょう。

「どうしたら、読む人に納得してもらえるかな。」

「どのような表現の仕方や、文章の組み立てにすればよいのかな。」

「図や絵、表やグラフなどを入れると分かりやすくなるかな。」

「筆者は、自分の主張を強調するために、どのような工夫をしているのかな。」

「筆者の主張に対して自分はどうか考えるかな。」

そのためには必要なことは？

☆言語活動は、読書活動や他教科と関連させてもよいでしょう。

○子どもに疑問や興味、必要性をもたせ、それに沿っためあてを立てていきましょう。

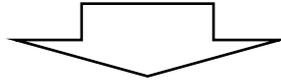
- 初発の感想から
- 振り返りから
- 学習計画から



Q18；授業の終わりで行う「ふりかえり」で何をすればいいのかわかりません。

S ；「めあて」に対してどれだけ達成できたかを自己評価することが「ふりかえり」です。

つまり……



①学んだこと

②次回への目標や意欲等

レベル（1） 教材の内容をどのように読み取ってきたのかが分かる記述を見付けましょう。



だんらくの中の「大事なないよう」を要点ということが分かりました。
めだかの身の守り方を早く読み取りたいです。



めだかは、小川や池のそこにもぐって行って、水をにごらせて身を守ることをはじめて知りました。「～からです」の言葉に注目して読みたいです。



積極的な発言や性格、行動面の傾向を評価しがちです。自分の学習の状況を把握し、前向きな姿勢の見られる記述を拾って褒めてもいいでしょう。全体に紹介してもいいですね。慣れてないうちは、「本時の学習で分かったこと」「気付いたこと」など視点を与えましょう。

レベル（2） 友達の考えを聞いて分かったことや、自分の考えをより深めていることが分かる記述を見付けましょう。



花子さんの意見を聞いて、「身を守る」という言葉に注目して文章を読めばよいことが分かりました。明日は、「～からです」と「身を守る」に注目すれば、要点が早くまとめられそうです。

知識や技能に関わる記述が加わって、より詳しい記述になりましたね。

- 今日のめあては、どのくらいできたか。
- 今日の学習で、よく分かったこと。（あまりよく分からなかったこと。）
- 明日からもっと学習してみたいこと……など視点をあたえましょう。



注目するのは、新学習指導要領にある粘り強さの見られる振り返りの記述内容です。例えば、
○学習課題に沿って振り返りを書いていた、今までの学習を生かして書いていたりしている。
○指導の重点となる内容、特に粘り強さを発揮してほしい内容について書いている。
○単元の中の具体的な言語活動について書いている。 などです。

言葉の特徴や 使い方に関する事項

Q19；えんぴつの持ち方は、どのように指導したらよいでしょうか。

S1；日常的に子どもが正しい持ち方を意識することが必要だと考えます。

低学年の書写の指導事項ですが、どの学年でも継続して取り組む必要があります。導入期の指導には、「ぱちぱち ころころ 少し上 とん」などの合言葉や「くじゃくほう」という方法があります。ぜひ1年生書写の教科書を見てみてください。また、指の位置だけでなく、軸の角度も大切です。



鉛筆の上は延ばしていくと持っている腕の肩の横に着くような角度（約60度）で傾けることが理想です。

S2；間違った持ち方が身に付いてしまったものを直していく指導も必要です。

1 人差し指がとがっていて、親指が重なっている持ち方
<直し方>

- (1) 鉛筆を持たない方の手で、鉛筆の先をつまむ。
- (2) 鉛筆から親指を離し、人差し指を鉛筆にぴったり付ける。
- (3) 親指を曲げて、人差し指より上で鉛筆を押さえる。

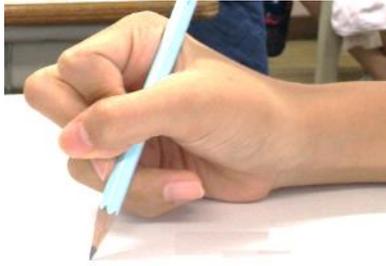


2 親指の先と人差し指の先が向かい合っている持ち方
<直し方>

- (1) 鉛筆の上をつまんで、人差し指にぴたっと付ける。
- (2) 親指を人差し指より上に動かす。
- (3) 人差し指を伸ばす。



3 人差し指、中指と親指で鉛筆をつまみ、薬指で支える持ち方

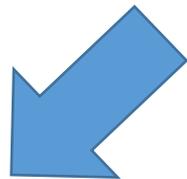
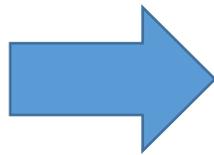


〈直し方〉

①鉛筆を離し、下の写真の形にする。



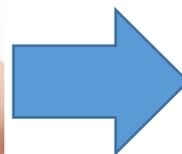
②人差し指の付け根と中指の爪の横に鉛筆を置く。



③人差し指を曲げ、鉛筆に付ける。



④親指を曲げ、人差し指の脇に置く。



正しい持ち方の完成

- 鉛筆を正しく持つことは、正しい筆順で書くことにもつながります。
- 持ち方が崩れているときは、筆順も間違っている可能性があります。

Q20 ; 語彙力を向上させたいです。どのような方法がありますか。

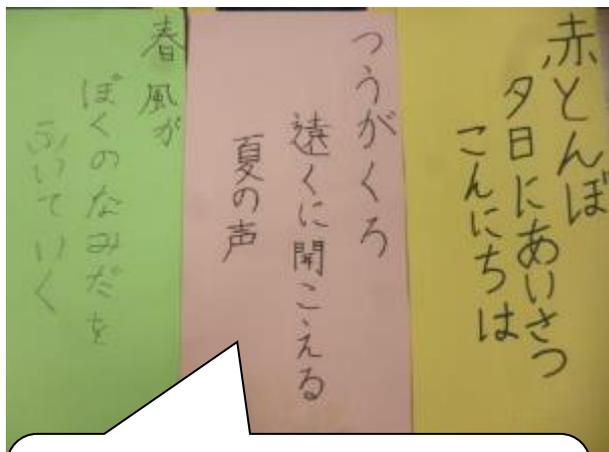
S ; 語彙力は一朝一夕に育つものではありません。語彙力向上への取り組みは、教科書の言語教材だけでなく、日常の言語生活を基にして、時には教師自身がクラスの子どもの実態に合うような教材を作ること大切です。

語彙力向上の流れは、以下の3つの過程で日常的に指導していくと良いでしょう。

- ①「知る」(語句指導)・・・新しい語句に出会い、意味を知る。
- ②「広げる」(語句指導、語彙指導)・・・その語句が使われる文脈や状況を知っていく。
- ③「使う」(語彙指導)・・・文章の中で読み書きし、生活の場で使えるようにしていく。

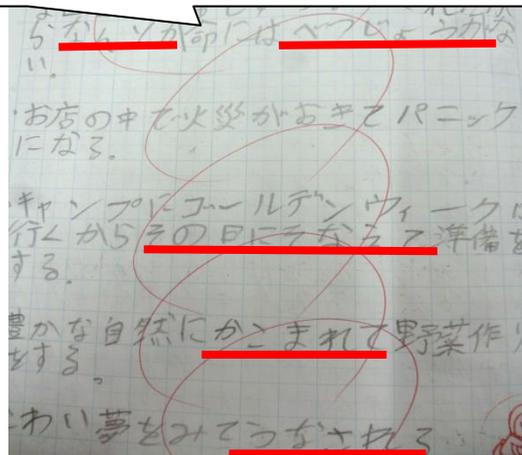
具体的な取り組みの提案①【朝学習や国語の導入5分における語句・語彙指導】

月	火	木	金
詩の音読・暗唱 低学年 教科書音読、50音表、いろはかるたなど 中学年 詩、俳句、百人一首など 高学年 名言名句、新出語彙の使用例文など(言葉の意味を推測して辞書で調べ、例文を作る練習)	基本事項の習得 低学年 単語をつないだ文作り(主語と述語)とその音読、いろはかるたの意味調べなど 中学年 過去に学習した言葉を使った詩や俳句作り、短作文(50字程度)文の構成練習(主語、述語、修飾語)など 高学年 過去に学習した言葉を使った詩作り、短作文(50~100字程度)、文の構成練習(修飾、被修飾の関係や受け身、自動詞と他動詞の書き換え)など		漢字の日 ①体に関する漢字(目・口・耳など) ②自然に関する漢字(花・空・雪など) ③季節に関する漢字(春・夏など) ④辞書引き(熟語の意味調べ) 集めた言葉で短文を作る練習



名詞・動詞・形容詞などの言葉を俳句作りで用いることで、生活の場でも使えるようにしていきます。

学習した漢字や言葉の短文作りを行うことで、文章だけでなく会話でも使うようになっていきます。



Q21；新出漢字の指導には、どのような方法がありますか。

S ；特に3つのことを大事にして、漢字の指導を行いたいと考えています。

- 1 日頃から、漢字に慣れること。
習っていない漢字も、「どんどん読む」ように取り組ませてみましょう。
- 2 熟語にして、「意味が伝わる言葉」として覚えること。
例文を写したり、辞書を使って熟語の意味調べをしたりするのも良いと思います。
- 3 書き順を大切にすること。
色を使ったり、一面ずつ書かせたりして、正しい筆順を意識しているか確認するようにしています。

特に、縦画と横画が交じり合う漢字は筆順を間違えやすいので、注意させてください。

学校で一斉に指導するとき

①読み（音訓）

文や熟語、使い方を確認する。教師による提示も行う。

②意味

訓、部首などから、漢字の意味を考える。

③字形

漢字がパーツの組み合わせになっていることに気付けるような指導を行う。

④書き順

指書き：指先を机に置き、書き順を言いながら書く。

※指先に書く手ごたえを感じながら書かせる。

空書き：みんなで声に出しながら、書き順を確認する。

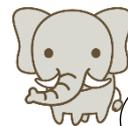
※空に向かって、アリさんになりきって小さな文字、ゾウさんになりきって大きな文字など、リズムカルに。

ユーモアを取り入れながら。

⑤ワークに書き込む

なぞり書き、写し書きする。

漢字ドリルなどを使って自学自習できるように指導しましょう



声に出すことで、耳で書き順を聞いて、さらに覚えやすくなります。



デジタル教科書を使うと一面ずつ再生することもできます。

家で練習するとき

「丁寧に書くこと」を意識させましょう。

また、「変化」を付けた反復練習をすると身に付きやすいようです。

一週間、毎日5つの漢字をノートに練習するという方法もあります。

(月曜日→書き順、火曜日→例文、水曜日→熟語、木曜日→例文を各文字2行ずつ、金曜日→新出漢字5つを使って創作作文)

配慮を要する児童への 支援方法

Q22；支援や配慮を要する子どもへの手立てを教えてください。

S1；まずは、「困っていることは何か」や「得意なことは何か」などその子どもの特徴を知りましょう。



【支援・配慮のための準備】

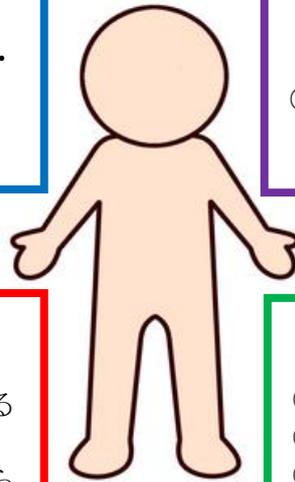
①何よりも、まずは子どもについて知りましょう。

主体性・意欲・態度・姿勢について

- 握力、視力、聴力、体幹など、身体面での困難さはどうか。
- 生活面において、十分な睡眠や栄養が摂れているか。
- 子どもの力量に応じた学習内容・量になっているか。

学び合い・交流場面において

- 子どもの実態に応じた環境調整はなされているか。
- 普段から学級の子も同士の交流において、信頼が得られているか。
- 子どもが安心して学びに参加する場となっているか。



文字・言葉について

- 言葉の理解・使い方は良好であるか。
- 書字において、とめ・はね・はらいなどができているか。
- お手本やドリルなどを一回～二、三回見るだけで、正確に文字を書き写すことができるか。
- 板書の時間がかかりすぎていないか。

発音・発声について

- 発音は明瞭か。
- 声の大きさは適切か。
- 読み飛ばしや言葉のまとまりに不自然さはないか。
- 年齢に相応な量の文章を流暢に読むことができるか。
- 恥ずかしさや不安感を強くもっていないか。

②支援法・配慮事項は、子どもの実態によって変わります。いろいろな方法を試みましょう。

③うまくいく方法、うまくいったときの状況を見付け、続けてみましょう。

④あきらめない、逃げないで済む方法を見付け、協力者を見付けましょう。

(協力者：親、先生、友達、兄弟、祖父母など)

⑤お金・時間・迷惑をかけずにできる工夫を取り入れましょう。

前述の①～⑤までを基本に、以下の方法を取り入れてみてください。

日常の指導の中で使える支援・配慮方法

子どもの実態	支援・配慮方法
集中しない・落ち着かない	課題などは短く・少なく・簡単に示す。(スモール・ステップで課題を与える。)
	できているかどうか定期的なチェックを行う。(1ページごと、1問ごとなど)
	「これから3つ(箇所)のことを話します(書きます・読みます)」と前置きしてから指示を出す。
	話したことの問い返し 「今、3つのことを話しました。言ってごらん。」 →言えなかった場合は、近くの人やわかる人に聞く。周りも優しく教えてあげる。 決して責めない。
	手順を箇条書きに板書などに記しておく。
	辞書などをできるだけ手元に配置し、すぐに調べられるようにする。
	教科書の漢字一覧や原稿用紙の使い方のページなど、付録ページなどを紹介し、子どもが活用できるようにする。
	声のものさしや話し方のモデルを示す。
	発表の際などに、原稿やメモを手元に持たせ、安心させる。
	話型をもとに、普段から正しい言葉遣いで話す・伝えることを習慣化させる。
	読む・書く箇所に線や番号などで印をつける。
パニックを起こす こだわりが強く、先に進めない・	手順を箇条書きにして板書やメモなどで記す。
	話型をすぐに確認できる場所に常置しておく。
	好きなもの、得意なことで意欲付け(虫好きの子には虫のシール、好きなキャラクターの描かれている筆記用具など)
	できそうなことから少しずつ取り組ませる。
	選択肢を与え、できそうなことを自己決定させる。
	「〇〇したら□□できるよ。」と、課題に取り組んだ後の楽しみを用意しておく。
コミュニケーションに苦しさがある	「もし自分だったらどうかな。」と考えさせる。
	ペア・トリオなどの組み合わせは十分に配慮し、できるだけ目・手の届く場所で活動させる。
	事前に、話型や手本を見せ、可能であれば練習もしておく。(ロールプレイ)

Q23；本を読むこと自体を嫌がってなかなか手に取ってくれない子どもがいます。どう指導したらよいのでしょうか。

S ；なぜ・何が嫌なのかを聞き取り、その子の“嫌”が解消する方法を見つけましょう。



《本が読めない理由① 文章が苦手》
ぼくは、文章を読むのが苦手だな。たくさん書いてあると、それだけで嫌になってしまう……。

まず、本に興味をもたせましょう。怖い話や落語、伝記や科学絵本など、子どもが興味をもつような内容の本を読み聞かせてはどうでしょう。（地理、文化、歴史、伝記、新聞などの読み聞かせもよいです。）



《本が読めない理由② 文字を読むのに時間がかかる》
私は一文字ずつ読むからすごく時間がかかるの。結局読んでも内容が分からなくなるし……。

読もうとしても読めずに、悔しい思いをしている子どももいるかもしれません。まずはその気持ちに寄り添いましょう。そして、行間の空いた文字数の少ない本や、豆知識本など1回に読むページ数が少ないものから読むよう勧めましょう。また、分かち書きになっている本なども有効な場合があります。



《本が読めない理由③ 日本語が分からない》
ぼくは、日本語がまだ分からないよ。簡単なものなら分かるけど……。

外国から転入してきた子どもなど、日本語に慣れていないために、読むことが困難な場合もあります。1ページに5行未満で、絵を見るだけでも内容がわかる絵本や、分かち書きになっている絵本を勧めたり、自宅でアニメや映画を進んで観るようアドバイスしたりしましょう。「もし自分が外国語を1から学ぶなら…」と、子どもの立場に立って対策を練りましょう。



○読み聞かせは、コミュニケーションの方法の手本として扱うことも可能な場合があります。また、良質な映画やアニメは、特に自閉傾向の強い子どもに対して、効果的であるという研究結果も出ています。

○自力で読めない子どもに対し、読むことが得意な子どもが読み聞かせをすることも可能です。交替制にするなど、子どもの自主性を重んじながら行うとよいでしょう。

【通常学級での実践事例】

- ◆小学校第2学年 子どもへ「子ども新聞」の継続的な読み聞かせ。(朝の会の中で1記事。5分以内。)
- ◆小学校第1学年 子どもへ伝記を読み聞かせ。(ヘレンケラー) (給食の時間に1章ずつ)
→後に保護者より、聞こえに課題のある子どもがヘレンケラーの話を読み、学習意欲と読書への関心が高まったと報告あり。

Q24 ; 文字を拾い読みしていて、文章として読むことが難しい子どもがいます。どのような支援ができるでしょうか。

S ; 極端に語彙が少ない、文字を捉える困難さがありそうです。子どもの感じていることをよく聞き取り、どんな支援や配慮ができるかを考えましょう。

語彙が少ない子どもの場合

- なぞなぞ遊び
- しりとり遊び
- 様々なジャンルの本の読み聞かせ
- 辞書を手元に置き、すぐに言葉を調べられる環境を整える。
- 友達や先生に聞きやすい学級の雰囲気をつくる。



文字を捉えることに課題がある子どもの場合

- 教科書の文章を単語や文節で区切る。また、音読の際には言葉、文節ごとにゆっくり読む。
- 音読の際には、大人が朗読し範読したものを聞かせ、それを真似て子どもも読む。
- 宿題で音読を出す場合は、前学年までの教科書の音読や、分ち書きになっている短い絵本の読み聞かせ・音読などに変える。
- 教科書やプリントなどは、大きく印刷・印字した物を用意したり、折って必要な箇所だけ見えるようにしたりする。
- 教科書などを読む際には、指なぞりしたり定規や紙で一行ずつ見えるように他の部分を隠したりして読む。【支援例①参照】
- 漢字学習の際には、似ている字を大きく並べて表示したり、違う箇所を色で区別したりして示す。

【支援例①】
スリット

黒の画用紙を行間のサイズに合わせ、くり抜くようにカットします。

見える範囲を狭めることで、字を追いやすくして、集中を高めることができます。



Q25；文章を書く際に、「て・に・を・は」が正しく使えない子どもへの支援にはどのようなものがありますか。

S ；短く、正しい文（1～3文）を書くことを、年間を通して指導しましょう。

①手本となる文章を視写する（1～3文程度）ことにより、簡単で短い文に慣れる。

②5W1H構造での文章作成トレーニング。

いつ どこで だれが 何を どうした を聞き取り、言葉をつなげて文章にしていく。

→子どもの頭の中の情報や思いを整理し、書きたいこと・書くべきことが精査される。

【支援例②】

【支援例②参照】

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

右の言葉を、すべてつなげ、文にしましょう。

どうした 【
】。

なにを 【
を】

だれが 【
が（は）】

どこで 【
】

いつ 【
】

③作文指導の際には、全文を書かいてから確認するのではなく、2～3文書いたら教師が確認するように指示を出しましょう。教師もその方が直しやすく、チェックも素早く済みます。また、子どもも自分で直しやすくなるため、苦手意識を軽減しながら、文章を書く力を高めていくことができます。



作文指導は、多くの子どもに手がかかり、限られた時間の中では十分に指導できない場合が多いです。ですが、できる限り、子ども自身が文章の間違いに気付き、自力で直すことができるように、継続して指導していきたいですね。

Q26 ; 漢字を覚えられない子どもへの支援にはどのようなものがあるでしょうか。

S ; 文字の形を捉えにくい子どもには、書き順指導の徹底と漢字のつくりを理解できるように指導しましょう。

使用頻度の少なさから覚えられない子どもには、普段からこまめに声を掛け、日常的に漢字を用いた文を書くように指導しましょう。

手首の動きを滑らかにし、手指の巧緻性の向上を図る手立て

- 点結び、線結びで練習→手先の動きを滑らかにする。
- 文字は広い場所に大きく書く。

漢字を覚えるための手立て

- 書き順を徹底して指導しましょう。色で分けるなど、見やすさを工夫するのも効果的です。
- 板書の際や作文指導の際などに、積極的に使用させましょう。
- 書き順指導の際には、始点、終点などにマークをつけると、書き順の傾向を捉えやすくなります。
- 子どもが練習する際には、漢字の意味、部首の意味などを確認しながら練習するよう助言しましょう。
- 時には、同じ部首をもつ漢字や、つくりが同じ漢字を集めるなどした練習方法を取り入れましょう。

テストなどで少しでも達成感を感じられるようにするための手立て

- ミニテストなどに挑戦する際には、当該子どもと相談して3～5問程度と決めましょう。また、書くマス目の大きさを十分に確保しましょう。
- ◆例えば10問の漢字ミニテストに対し、覚えやすそうな漢字を3～5問だけ覚えてくるなどすると、子どもも意欲が続きやすく、点数にも加算されるので達成感を味わいやすいです。

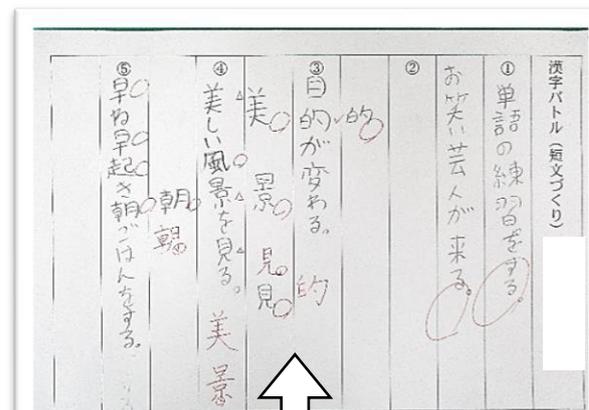
【実践例 ; 漢字バトル】(5～10分程度)

手元に、教科書の付録ページにある「漢字一覧」を用意する。

- ① 当該学年の漢字をたくさん用いた文を書いたほうが勝ち。習っていない漢字を使ってもよい。
- ② 載っている例文を積極的に活用することも可能とする。
- ③ 間違えた漢字はカウントできない。そのため、書き順、画数に気を付ける。文は、できるだけ短く。長くても2行まで。

【実践例 : もしも作文】

- ◆「もしも魔法使いだったら●●したい。」「もしも秘密道具が手に入ったら、●●で■●したい。」など、子どもが自由に想像して文章を書けるテーマを与える。
- ◆習った漢字は使う。1文は短くてよいが、できるだけ長い文章とし、内容を豊かに書くことを目指す。



とめ・はね・はらいも採点のポイントとすると、注意深く確認するようになります。

ICT機器活用事例

Information and Communication Technology

情報通信技術機器活用事例

I 書写毛筆の活用事例（デジタル教科書の活用）

みなさんは、毛筆の授業をどのようにされていますか。毛筆の指導でデジタル教科書を活用したことはありますか。ぜひ以下の例を参考に活用してください。

【授業の基本的な流れ】	I C Tの活用場面
<p>1 用具準備</p> <p>【右側】すずり・筆・墨液</p> <p>【左側】手本</p> <p>【中央】下敷き</p> <p>※下敷きの下に、半紙を5枚程度、敷かせておくと、次に書くとき素早く用意できます。机の中でも大丈夫です。</p> 	<p>「はじめの学習」に、姿勢や用具の扱い方が載っています。画面を見ながら用意できます。</p> 
<p>2 めあての確認</p> <p>書く字に対してのめあてを確認する。</p> <p>手本の動画を見せながら、解説すると効果的です。</p> <p>特に、筆運びや穂先の動かし方に注目できると、子どもの書く字が変わってきます。</p> 	<p>手本に対しての動画は、3本収録されています。目的に応じて使い分けましょう。</p> 
<p>3 ためし書き</p> <p>1枚目を書きます。書き終わったら、手本と見比べて、どんなところに気を付けて書くのか考えさせます。</p> <p>※この時、個別に回りながら、指導します。めあてに対して、上手に書けているところや、次はどんなところに気を付けるのか確認します。子どもに発表させるのも良いです。</p>	
<p>4 練習書き</p> <p>自分で考えた練習のポイントを踏まえ、次々と書かせていきます。</p> <p>※教師は個別指導します。筆の扱いが難しそうにしている子は、手を取って一緒に書くと、筆や穂先の動かし方の感覚がつかめます。</p>	<p>練習中は、消音・ループ再生にして、常に確認できるようにします。</p> 
<p>5 まとめ書き</p> <p>今まで練習してきた成果を出します。書き始めは、全員一斉に書くようにします。気合いが入ります。</p> 	

6 片付けと鑑賞

仕上がった作品を黒板に貼り出していきます。

※黒板に墨が付かないように、新聞紙を貼っておきます。

確認が終わった子どもから後片付けを行っていきます。終わった子どもは、作品を鑑賞します。



コラム 「いろいろな学習場面でのICT活用」

ICTの利点は、写真や動画を見せることができる点です。物語文での、「一面の銀世界が広がっている」「まるで大理石のように固く」や説明文での「ブナの森」などの表現を指導すると、「言葉が分かっていない」「分かったような気になっている」という場合があります。また、「歌舞伎」や「能」「狂言」などの日本の伝統芸能などを見た経験がない子どもも多く、具体的にイメージすることが難しいことがあります。

語彙の獲得にも関わりますが、実体験がない言葉は理解しづらいものです。子どもの経験不足を補い、疑似体験に活用できるのが、ICT機器の強みです。現在は、様々なコンテンツが提供されています。インターネットで検索をすれば、子どもに写真や動画などをすぐに見せることができます。

また、授業中に書画カメラや写真を活用すれば、子どもが書いたノートを教室中の子ども達と共有することができます。

ICT機器は学習の1つの道具です。授業でどのように活用すると効果的かを考えて工夫すると、楽しく理解しやすい授業づくりができます。



NHK for school おはなしのくにクラシックには、「歌舞伎」「能」「狂言」など伝統芸能を紹介する動画が公開されています。また、『竹取物語』『平家物語』などの古典にかかわる動画も公開されています。



2 「読むこと」の授業での活用事例（3年生下 『おにたのぼうし』）

3年生下巻での『おにたのぼうし』での実践を紹介します。

1 言語活動の設定について

中心教材の『おにたのぼうし』は、あまんきみこ作の文学的文章教材であり、ちょうど節分の時期に合わせて学習するように配置されています。



本教材で子どもは、中心人物である「おにた」の言葉「おににもいろいろあるのにな…」というキーワードを意識しながら読みを進めることになると予想しました。そのキーワードを中心に据えて単元計画を考えました。

よくある授業には、教材の読み取りをして学習を終わらせてしまうことが多く見受けられます。ですが、今回の実践では、カリキュラムマネジメントの考え方を生かして、総合的な学習の時間と連携させた言語活動単元：『おにしらべをしよう』という単元の学習にしました。

2 身に付けさせたい力について

今回の実践で身に付けさせたい力は、2つあります。

- ① 中心教材『おにたのぼうし』の学習を通して、場面の移り変わりや登場人物の心情の変化を、様子や行動、気持ちや性格を表す言葉から読み取る力を付けること。
- ② 学んだことを生かして、図書室や図書館にある「おに」に関連する本を読み、どんな鬼なのか自分が読み取ったことを、紹介カードにまとめ紹介すること。

「読むこと」の授業の目的は、普段の読書活動に学んだことを生かすことであると考えます。今回は、①で身に付けたことを生かして、「おに」について多面的に調べる「おにしらべ」を設定しました。最終活動として、自分たちが調べた「おに」を全校に紹介することで、学習に対する必然性も生まれ、子どもたちの学習意欲が格段に高まると考えました。

3 ICT機器活用の紹介

① 板書写真の活用

これまで教師が子どもに口頭だけの確認で、簡単に終わらせたがり、授業後に時間をかけて板書と同じような掲示物を作成したりすることが多くみられました。しかし、写真を提示すれば、視覚的にわずかな時間で確実に、前時を振り

返ることができます。板書の写真は、授業開始の時だけでなく、授業の中盤・終盤と子どもの読みを深めさせるために、繰り返し提示しました。



② 書画カメラの活用

子どもの考えを書いたノートを提示して、その子の「読み」(考え)を共有します。この場合、プレゼンテーションのような発表になるので、読みを共有しただけではなく、発表する子どもにとっては上手な発表の仕方を模索することになります。多くの子どもは発表することに慣れていません。そのため、分かりやすく話すためにはどのようにしたらよいか、一緒に考えることもできました。



③ Zoomの活用

単元の最終活動に自分たちが調べた「おに」を全校に紹介することを設定しました。通常の場合、体育館のステージや朝礼台の上で発表していたと思いますが、全校児童が集まらない状況だったため、今回は全校朝会の時間に「Zoom」を活用して、リモート発表を行いました。これまで学習してきたことを、模造紙にまとめて発表しました。これも書画カメラで説明するのと同じように、プレゼンテーションのような発表になりました。本番直前まで、リハーサルを繰り返しました。また、「Zoom」を活用して全校に伝えるという明確な目的をもつことができ、大きな達成感を得ることができました。

各学年は、教室で発表の様子を参観しました。



直前までリハーサルしました。調べた本の冊数は、40冊になりました。まとめた模造紙を掲示し、全校に読んでもらえるようにしました。



ICT機器を活用した 3年生『おにたのぼうし』の展開の様子



①板書の写真で前時を確認する。



②全文シートで読みを確かめる。



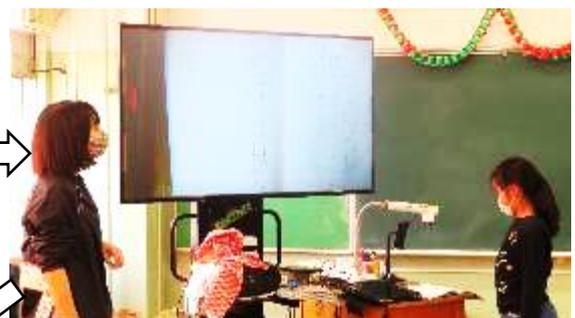
③ノートを読み返して確認する。



④板書の写真とつなげて、読みを確かにする。



⑤構造的な板書で読みを進める。



⑥書画カメラを使って読みを交流する。



⑦Zoom を活用して学習したことをまとめ、
全校に発表する。



⑧各学年が教室
で視聴する。

指導を終えて

今回は、国語の学習における ICT機器の使い方の実践例を示しました。実際に使ってみると「百聞は一見に如かず」のような学習効果が見られました。大切なのは頻繁に長時間使うということよりも、タイミングよく効果的に活用することが肝要です。今後は、G suite のような複合的ソフトを活用すれば、画面上で子どもの考えを交流させることも可能です。多くの教師とともに、ICT機器の活用方法を模索していきたいです。

令和3年度版『Q&S集』の作成に携わって

1時間の授業がきちんと組み立てられている授業や、発問が的確で子どもがしっかり考えている授業を参観するとどうしてこのような授業ができるのだろうか、どのように教材研究をしているのだろうか、という疑問をもった経験はありませんか。また、協議会に参加している時に、これは何について話しているのだろうか…と、内容が分からなくなった経験はないでしょうか。私は、教師になってしばらくはこのような思いで、日々、国語の授業をしていました。

足立スタンダードのメンバーになり、国語科の指導で悩んでいる先生方に少しでも自分たちの経験が役に立てないだろうか。さらに、コロナ禍であっても、まずは自分たちの授業力を高めなければならない。そのような思いが起点となって、『Q&S集』の作成に至りました。

編集するに当たり、とても驚いたことがありました。それはQ=Questionを集めていた時のことですが、何とQが国語のほぼ全ての領域にあったことです。しかも教員経験年数に関わらず、私たちは皆、日々多数のQを抱えながら、そして悩みながら授業を行っていることを改めて知りました。そこで今回は、授業のスタートラインである教材研究の仕方・授業計画の立て方に、より多くのQ&Sを提示することにしました。

作成する中で、私自身も分からないことや、誤った解釈をしていたことに気付きました。また、そんな方法もあるのかと、メンバー11人はいろいろな指導法があることも知り、お互いに刺激となり勉強となりました。そこで強く感じたことは、大事なことはどの指導法が正しいのかを探究するのではなく、色々な方法を見たり聞いたりして、それを子どもたちの実態に合わせて実践し、自分なりの指導法を徐々に創り出す、ということでした。

全てのQに対して十分なSを示すことが出来なかったかもしれません。しかし、私たちはまだまだ研究途上であることを知ったと同時に、これからも、国語の授業作りを研究していかなければならないと決意を新たにしました。この『Q&S集』をもとに、ぜひ、自分なりに実践・検証していただき、新たな「S」が一つでも多くできたら幸いです。

令和2年度足立スタンダード小学校国語世話人
高野小学校主任教諭 小暮 直子

令和2年度 足立スタンダード小学校国語委員

委員長 足立入谷小学校 校長	添野 誠	世話人 高野小学校 主任教諭	小暮 直子
舎人小学校 主任教諭	福田 晴香	東伊興小学校 主任教諭	木村 麻由
西新井小学校 主任教諭	丸山 秀光	西伊興小学校 主任教諭	春原 亜希
花保小学校 主任教諭	若松 理沙実	栗原北小学校 教 諭	金澤 亮佑
綾瀬小学校 主任教諭	井手上 真由子	綾瀬小学校 教 諭	菊池 真実
加平小学校 教 諭	佐藤 静香	足立入谷小学校 主任教諭	笠原 慎太郎
小学校国語担当指導主事	足立区教育委員会	教育指導課 指導主事	奥田 奈緒子